



コロナウイルスによるOLED市場の変化

Chief Analyst
Dr. Choong Hoon Yi

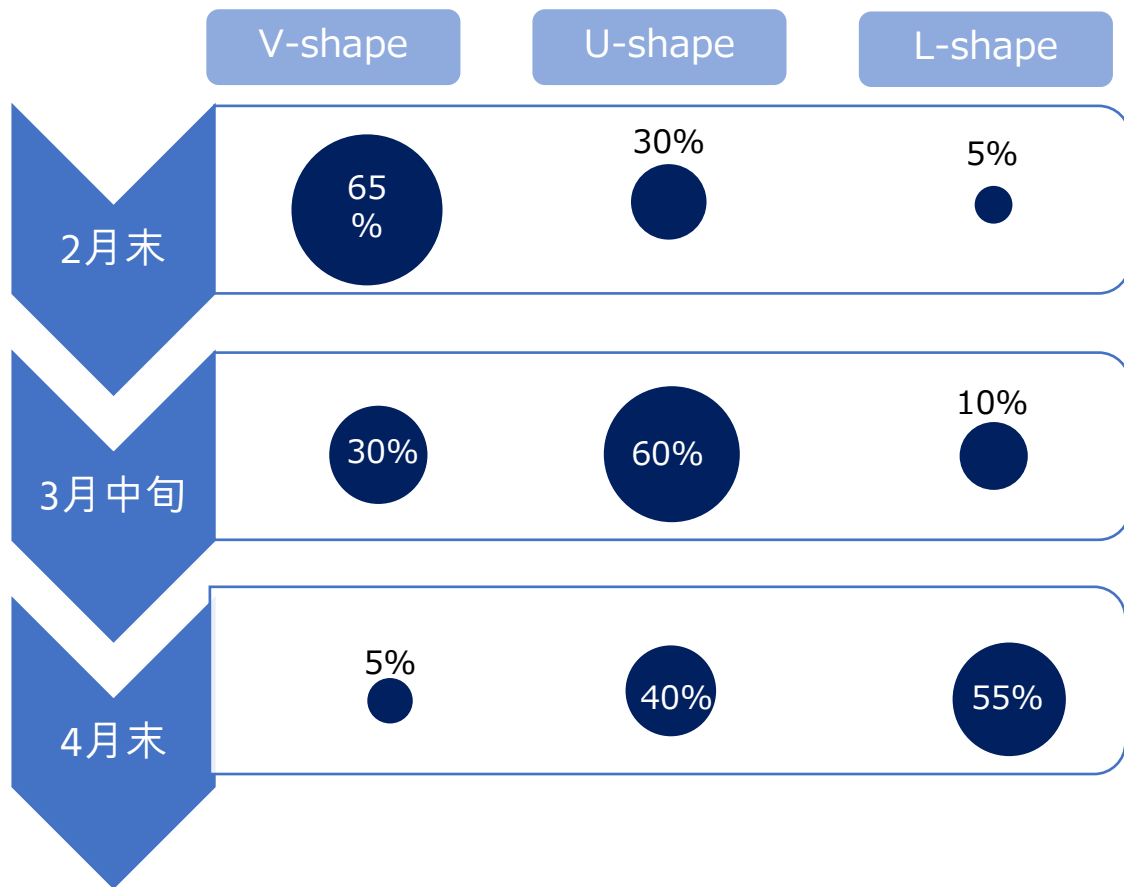
1. コロナウイルスが世界経済に与える影響
 - 1.1 封鎖の強さと経済の回復速度
 - 1.2 コロナウイルスによる今後の経済状況のシナリオ
 - 1.3 コロナウイルスによる産業別の影響
2. コロナウイルスがセット産業に及ぼす影響
 - 2.1 ディ스플레이産業に及ぼす要因の分析
 - 2.2 セット産業
 - 2.3 サムスン電子のスマートフォン事業
 - 2.4 アップルのスマートフォン事業
3. コロナウイルスがOLEDパネルメーカーへの影響
 - 3.1 サムスンディスプレイ
 - 3.2 LGディスプレイ
 - 3.3 BOE
 - 3.4 Tianma
 - 3.5 CSOT
4. OLED量産キャパ変化
 - 4.1 投資時点と投資キャパ展望
 - 4.2 量産キャパ見通し
 - 4.3 企業別量産キャパ見通し
 - 4.4 世代別量産キャパ見通し
 - 4.5 モバイルデバイス用の量産キャパ見通し
 - 4.6 モバイルデバイス用基板別量産キャパ見通し
 - 4.7 TV用OLED量産キャパ見通し
 - 4.8 国別量産キャパ見通し
5. 全OLED市場の変化
 - 5.1 出荷と売上高
 - 5.2 応用製品別市場展望
 - 5.3 2020年OLED市場の変化
6. スマートフォン用OLED市場の変化
 - 6.1 全体の出荷台数と売上高見通し
 - 6.2 国別出荷量と売上高見通し
 - 6.3 タイプ別の出荷量と売上高見通し
 - 6.4 国別flexible OLED出荷量と売上高見通し
 - 6.5 国別foldable OLED出荷量と売上高見通し
 - 6.6 国別rigid OLED出荷量と売上高見通し
7. TV用OLED市場の変化
 - 7.1 出荷と売上高見通し
 - 7.2 企業別出荷と売上高見通し
8. ウォッチ用OLED市場の変化
 - 8.1 出荷と売上高見通し
 - 8.2 国別出荷と売上高見通し
9. モニター用OLED市場の変化
 - 9.1 出荷と売上高見通し
 - 9.2 基板別出荷と売上高見通し

1. コロナウイルスが世界経済に与える影響

1.2 コロナウイルスによる今後の経済状況のシナリオ

- 現在の状況としてはL字型のシナリオになる可能性が高い。

予測時点によるシナリオの変化



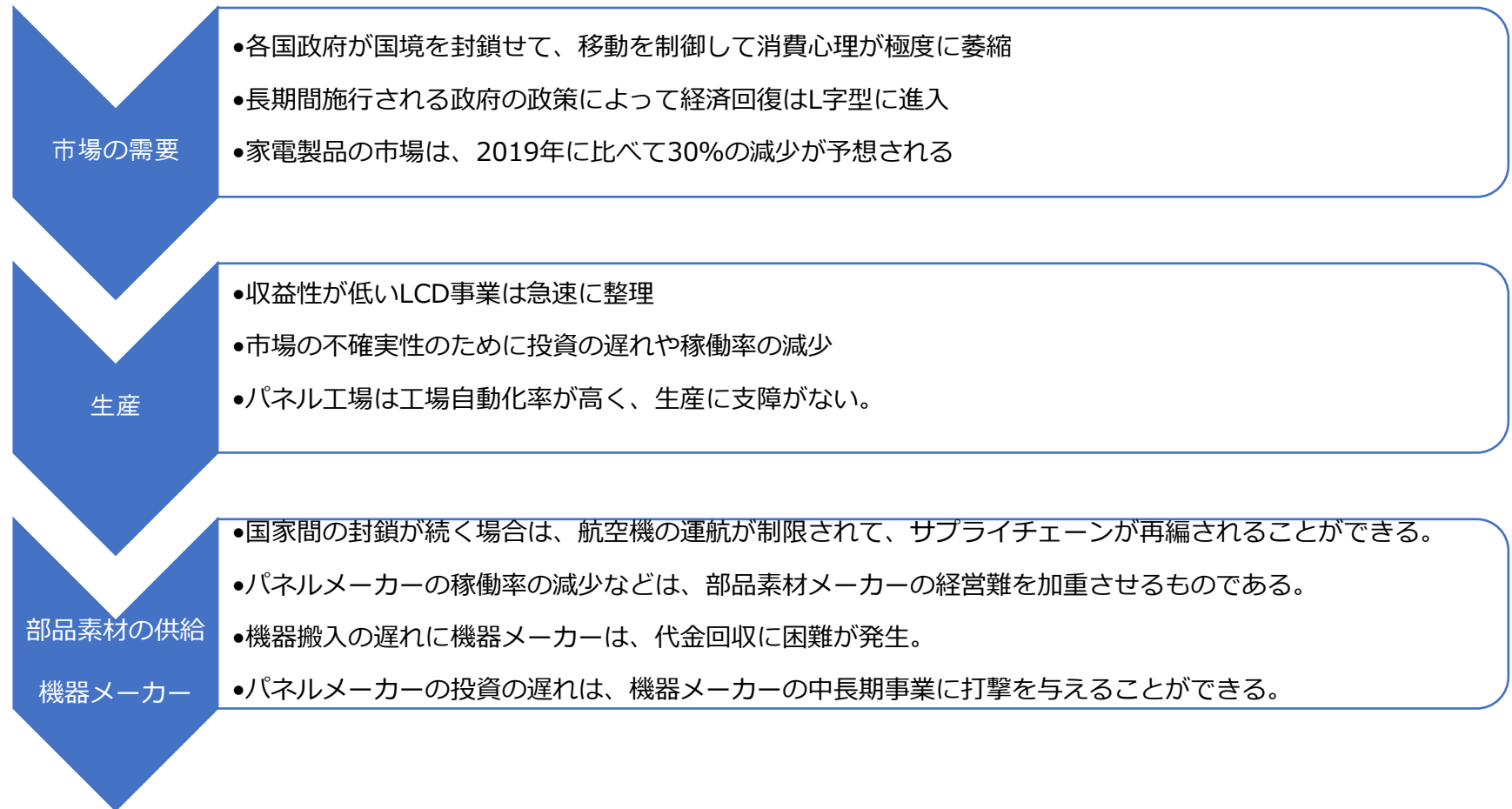
予測時期別の主要な状況

病気の拡散	政府の対応	産業の影響
<ul style="list-style-type: none">中国と韓国、イタリアを中心に感染者増加	<ul style="list-style-type: none">中国と韓国など一部の国の旅行制限	<ul style="list-style-type: none">中国発のサプライチェーンの打撃
<ul style="list-style-type: none">欧州に拡散	<ul style="list-style-type: none">国境封鎖本格化	<ul style="list-style-type: none">ヨーロッパとアメリカの工場稼働中断拡大
<ul style="list-style-type: none">米国、ヨーロッパ、日本で感染者の急増	<ul style="list-style-type: none">都市封鎖	<ul style="list-style-type: none">産業全般の需要供給急減貿易麻痺

2. コロナウイルスがセット産業に及ぼす影響

2.1 ディ스플레이産業に及ぼす要因の分析

- ディスプレイ産業がコロナウイルスによって受ける影響を分析するためには、次の3つの要素を同時に見なければならぬ。



3. コロナウイルスがOLEDパネルメーカーへの影響

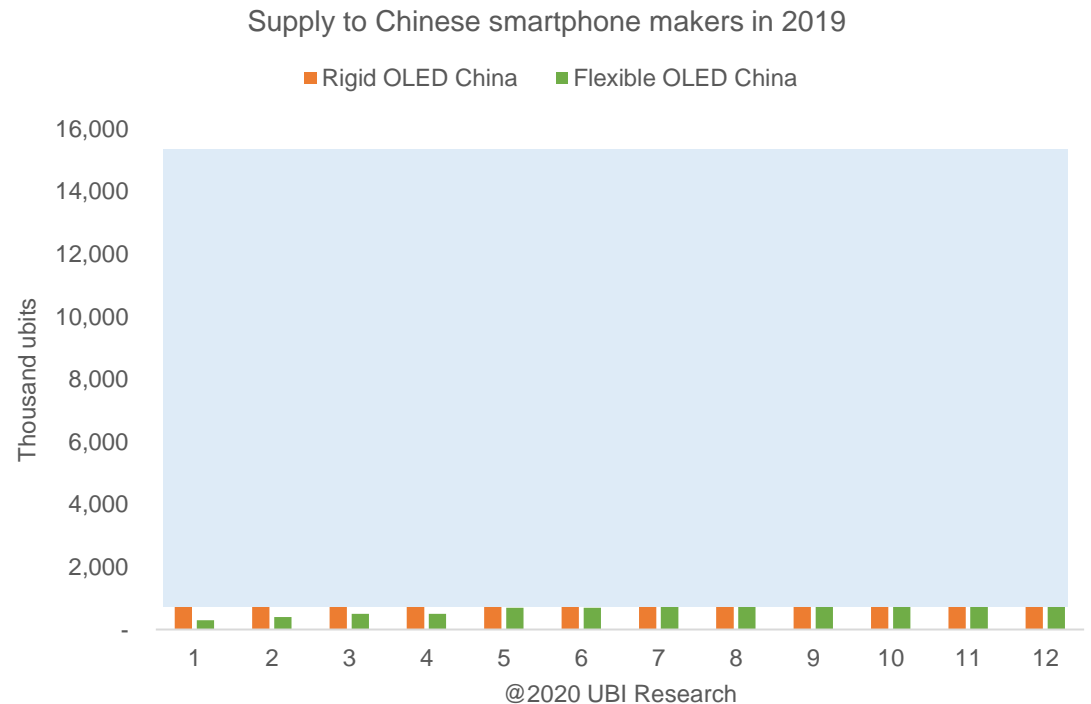
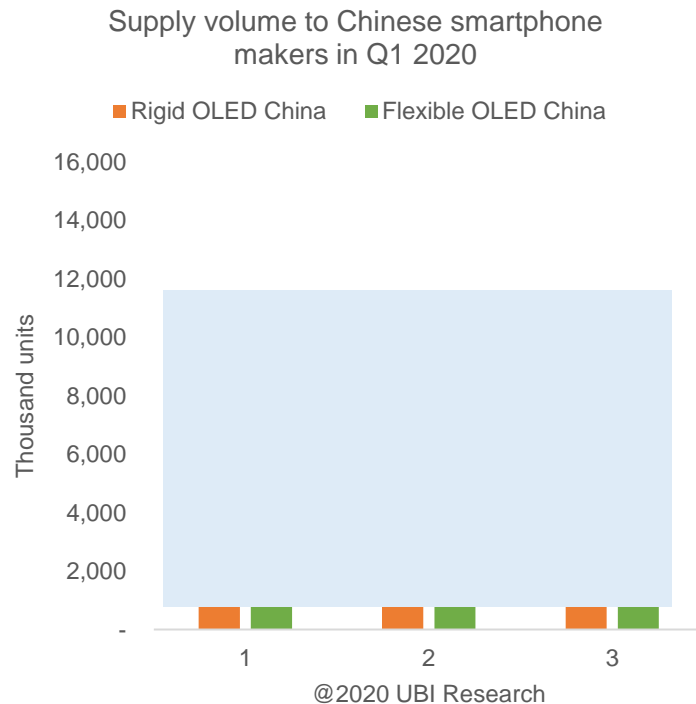
3.1 サムスンディスプレイ

中国のスマートフォンメーカー向け

Flexible OLED

サムスンディスプレイの2020年第1四半期の中国のスマートフォンメーカー向けflexible OLED出荷量は***万台で、2019年同四半期***万台に比べると3.8倍に増加した数値である。

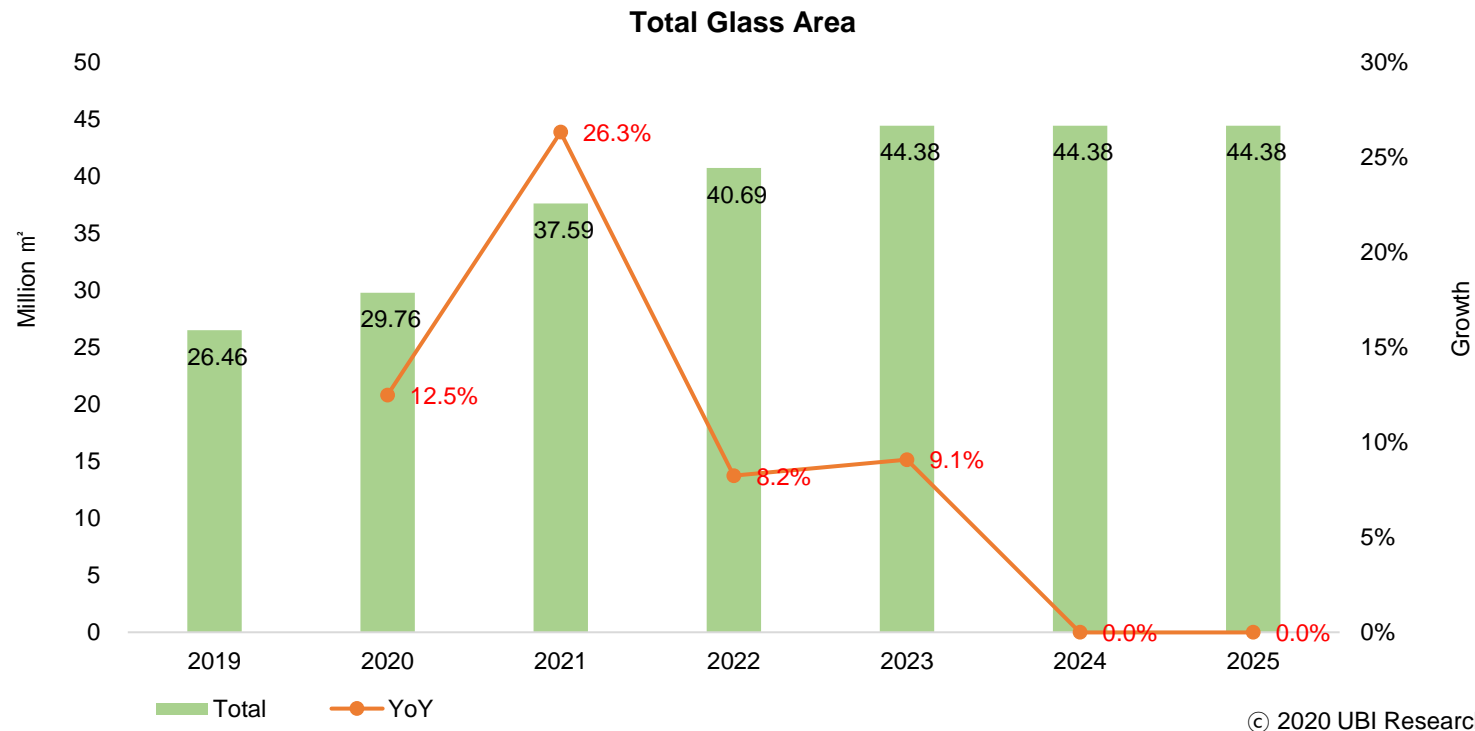
2019年flexible OLED出荷量は****万台だった。2020年サムスンディスプレイの中国向けflexible OLED出荷量は市場の上昇幅とコロナウイルスの余波を勘案した時***万台まで増加すると予想される。



4. OLED量産キャパ変化

4.2 量産キャパ見通し

- コロナウイルス事態とサムスンディスプレイのQD-OLED ph2投資中止の可能性のために2022年以降のディスプレイ生産可能面積が変化した。
- 2020年年次報告書で2022年の基板面積は45.17万平方メートルだったが、40.69万平方メートルで修正された。10%程度が減少した。



5. 全OLED市場の変化

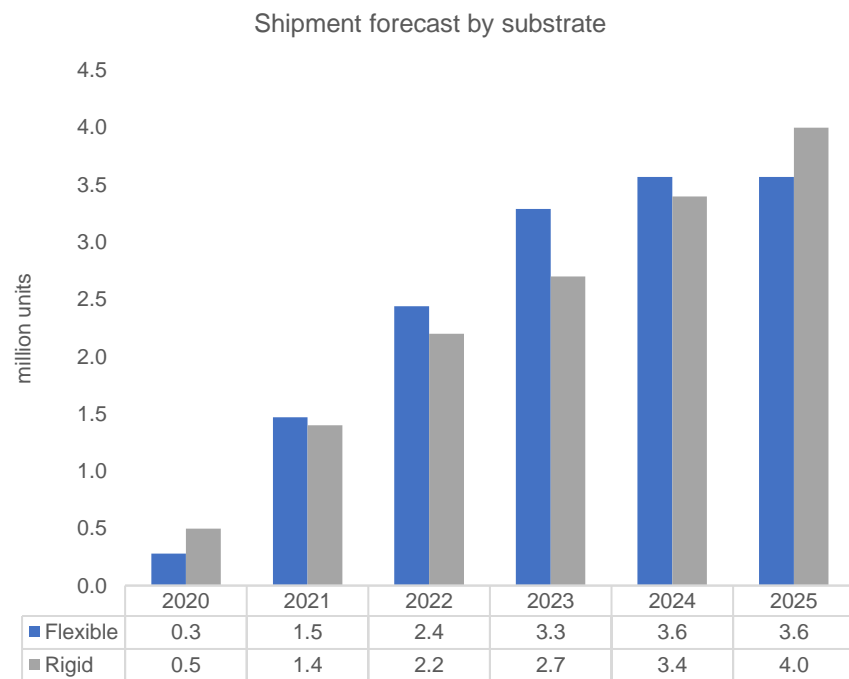
5.3 2020年OLED市場の変化

Application	Previous forecast		Modified forecast		Increase/decrease		%	
					Revenue	Shipment	Revenue	Shipment
Smartphone					-477	-41.6	-1.6%	-7.9%
TV					-1,062	-1.3	-30.9%	-26.5%
Watch					-587	-11.7	-16.4%	-9.9%
Monitor					140	0.5	264.2%	166.7%
Tablet PC					-12	0.0	-5.0%	0.0%
Etc.					163	4.0	32.6%	40.0%
Total					-1,835	-50.0	-4.8%	-7.6%

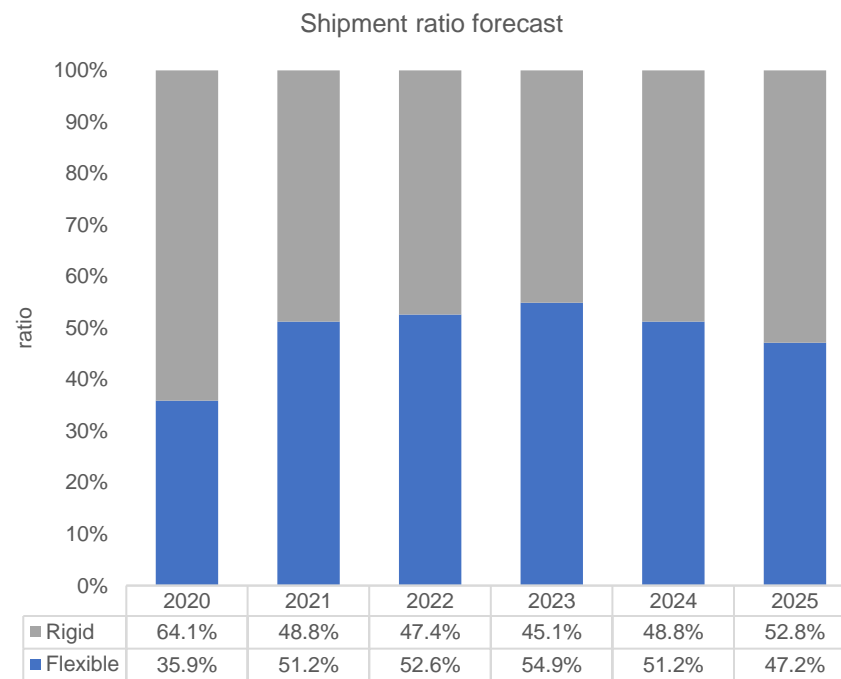
9. モニター用OLED市場の変化

9.2 基板別出荷と売上高見通し

- モニター用OLED市場はサムスンディスプレイとJOLED2社によって動いている。
- サムスンディスプレイは15.6インチOLEDパネルを販売しており、2021年からは32インチ4K*****をモニターとして販売する予定である。JOLEDはインクジェット技術としてOLEDパネルを生産している。
- 2020年モニター用OLEDパネル出荷量は**万台であり、2025年10倍程度が成長した***万台の市場に成長すると分析される。OLEDモニターは目に有害なブルーの波長が少なく、ゲーム用と高所得層を主とした市場が形成されることを期待される。
- 2020年モニター用OLEDパネル予想売上高は**億ドルであり、2025年は**億ドルである。



@2020 UBI Research



@2020 UBI Research